

小型浄化槽のメーカー別 保守点検管理マニュアル (更新版)

一般社団法人 千葉県環境保全センター

目 次

はじめに

| | |
|----------------------|----|
| 1 アムズ株式会社 | |
| 1) C X A 型 (構造図の変更) | 6 |
| 2 株式会社クボタ | |
| 1) K X F 型 | 9 |
| 3 株式会社ダイキアクシス | |
| 1) X C 型 | 13 |
| 2) X E 型 | 16 |
| 4 ニッコー株式会社 | |
| 1) 浄化王 N E X T 型 | 19 |
| 5 株式会社西原ネオ | |
| 1) C N Z 型 | 23 |
| 6 付 録 | |
| 1) ブロワメーカー別タイマー設定方法 | 27 |

アムズ 株式会社

1-1 アムズCXA型

○処理方式：流量調整型嫌気ろ床担体流動浮上ろ過方式

高度処理・窒素除去型：BOD 10mg/L 以下 T-N 10mg/L 以下 SS 10mg/L 以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|----------------------|--------------------|--|---------------------|
| 一次処理第1室 (嫌気ろ床第1室) | スカムの状態 | スカムが水面上 10 cm以上発生している。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状態 | 5・7人槽は 325mm、10人槽は 400mm の場合。 | 透明管の差込 |
| | ろ材の状況 | ろ材の閉塞など。 | 目視・透明管の差込 |
| | 水位の上昇・痕跡 | 目安線より水位が高い。 著しい水位上昇の痕跡がある。 | 目視 |
| | 移流口の状況 (定量移行装置) | 移行水が移送されない。設定水量に対し、 著しく少ないまたは多い。 | ストップウォッチ メスシリンダー |
| 一次処理第2室 (嫌気ろ床第2室) | スカムの状態 | 水面上 10cm 以上発生している。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状態 | 5・7人槽は 325mm、10人槽は 400mm 以上発生 している。 | 透明管の差込 |
| | ろ材の状況 | ろ床の閉塞など。 | 目視・透明管の差込 |
| | 水位上昇・痕跡 | 目安線より水位が高い。 著しい水位上昇の痕跡がある。 | 目視 |
| | 移流口の状況 | 付着物がある | 目視・ブラシ |
| 生物反応槽 (担体反応槽) | 担体の状況 | 担体が滞留している。 | 目視 |
| | 生物膜の状況 | 生物膜の付着がない。 | 目視 |
| | 剥離汚泥 | 多量の SS が旋回している。 | 目視 |
| 沈殿・処理水槽 (担体濾過槽) | 堆積汚泥の状況 | 多量の SS が流出している。 | 目視 |
| | 越流ぜき (担体移流防止網) | 異物が付着している。 | 目視 |
| 循環装置 (定量移行装置) | | 循環水が移送されない。設定水量に対し、 著しく少ないまたは多い。 (担体反応槽) | ストップウォッチ メスシリンダー |
| 流量調整装置 (定量移行装置) | | 移送水が移送されない。設定水量に対し、 著しく少ないまたは多い。 | ストップウォッチ メスシリンダー |

備考：流量調整部は嫌気ろ床第1室のみ。

- ・ 定量移送装置の移送水量は、移行用バルブの開度を調整してください。移行用バルブ目盛を人槽に合わせてください。
- ・ 循環装置の循環水量は循環用バルブの開度を調整し行ってください。移行用バルブ目盛を人槽に合わせてください。
- ・ 定量移送装置及び循環装置は、少なくとも年1回以上の洗浄を行ってください。
- ・ 保守点検毎に担体ろ過槽の逆洗を行い、逆洗汚泥を嫌気ろ床第1室に移送してください。



図 1-1-1 浄化槽のイメージ

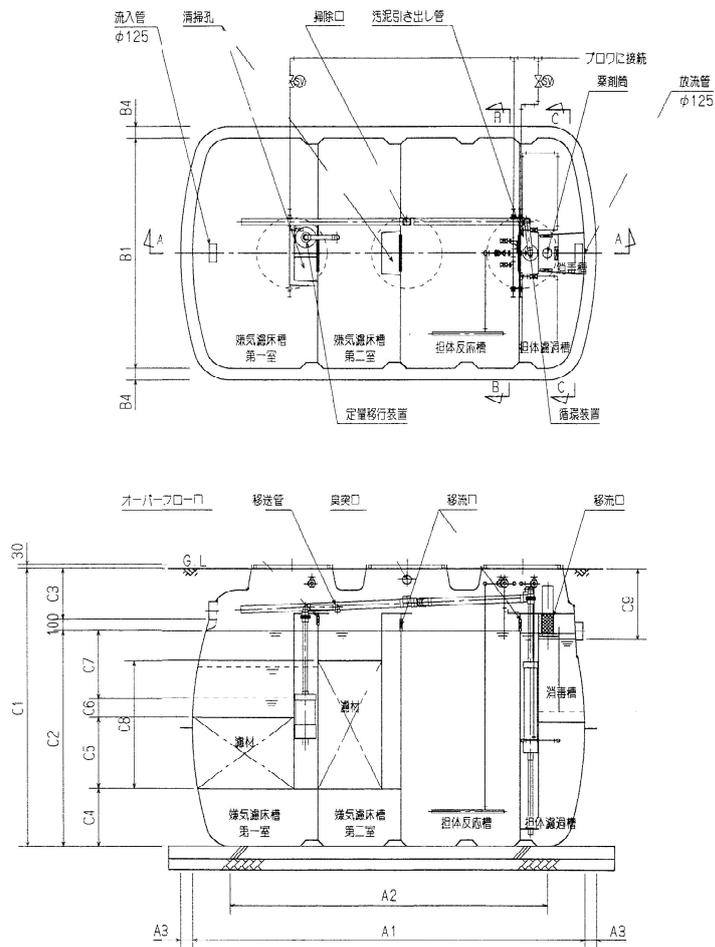


図 1-1-2 構造図



図 1-1-3 フローシート

株式会社 クボタ

2-10 クボタKXF型

○処理方式：流量調整型嫌気ろ床担体流動浮上ろ過方式

高度処理・窒素除去型：BOD 10mg/L以下 T-N 10mg/L以下 SS 10mg/L以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|-----------------------|------------------|---|------------------|
| 一次処理第1室 (嫌気ろ床槽第1室) | スカムの状況 | 多量に発生している。(水面上10cm以上の場合は清掃時期と判断する) | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 濾床の下端面まで堆積している。 5・7型:325mm 10型:400mm | 透明管の差込 |
| 一次処理第2室 (嫌気ろ床槽第2室) | スカムの状況 | 多量に発生している。(水面上10cm以上の場合は清掃時期と判断する) | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 濾床の下端面まで堆積している。 5・7型:325mm 10型:400mm | 透明管の差込 |
| 生物反応槽 (担体反応槽) | 担体流動槽の状況 | ・多量のSSが旋回している。 ・担体が滞留している。 ・生物膜が見られない | 目視 |
| 沈殿・処理水槽 (担体ろ過槽) | ろ過槽の状況 | ・多量のSSが流出している。 ・閉塞により水位が上昇 | 目視 |
| 循環装置 (循環装置) | | 異物が付着、揚水しない 計画循環水量(L/分) 5人槽 2.1~3.57 7人槽 2.9~4.9 10人槽 4.2~7.0 | 目視・ビーカー・ストップウォッチ |
| 流量調整装置 (移送装置) | | 異物が付着、揚水しない 計画移行水量(L/分) 5人槽 2.1~5.5 7人槽 2.9~7.8 10人槽 4.2~11.1 | 目視・ビーカー・ストップウォッチ |
| 逆洗タイマー設定 | 1日1回 AM2:00~2:05 | | |

備考：流量調整部は嫌気ろ床第1室。

①逆洗時間(標準5分)を延長する場合(主に閉塞した場合)

エアリフトの移送水量を調整し、返送量が大きくならないようにします。

逆洗1回当たりの返送量

5人槽:63L(逆洗時間を10分にする場合 $63/10=6.3\text{L}/\text{min}$)

7人槽:88L(逆洗時間を8分にする場合 $88/8=11\text{L}/\text{min}$)

10人槽:125L(逆洗時間を7分にする場合 $125/7=17.8\text{L}/\text{min}$)

②逆洗回数(標準1回/日)を増やす場合(主にSSが多い場合)

逆洗の間隔を1時間以上空けて逆洗時刻を設定します。

例)逆洗1回目 2:00~2:05

逆洗2回目 3:05~3:10

1時間以上間隔をとることにより、逆洗時の嫌気濾床槽の汚泥の移流を防止できます。

クボタ K X F 型

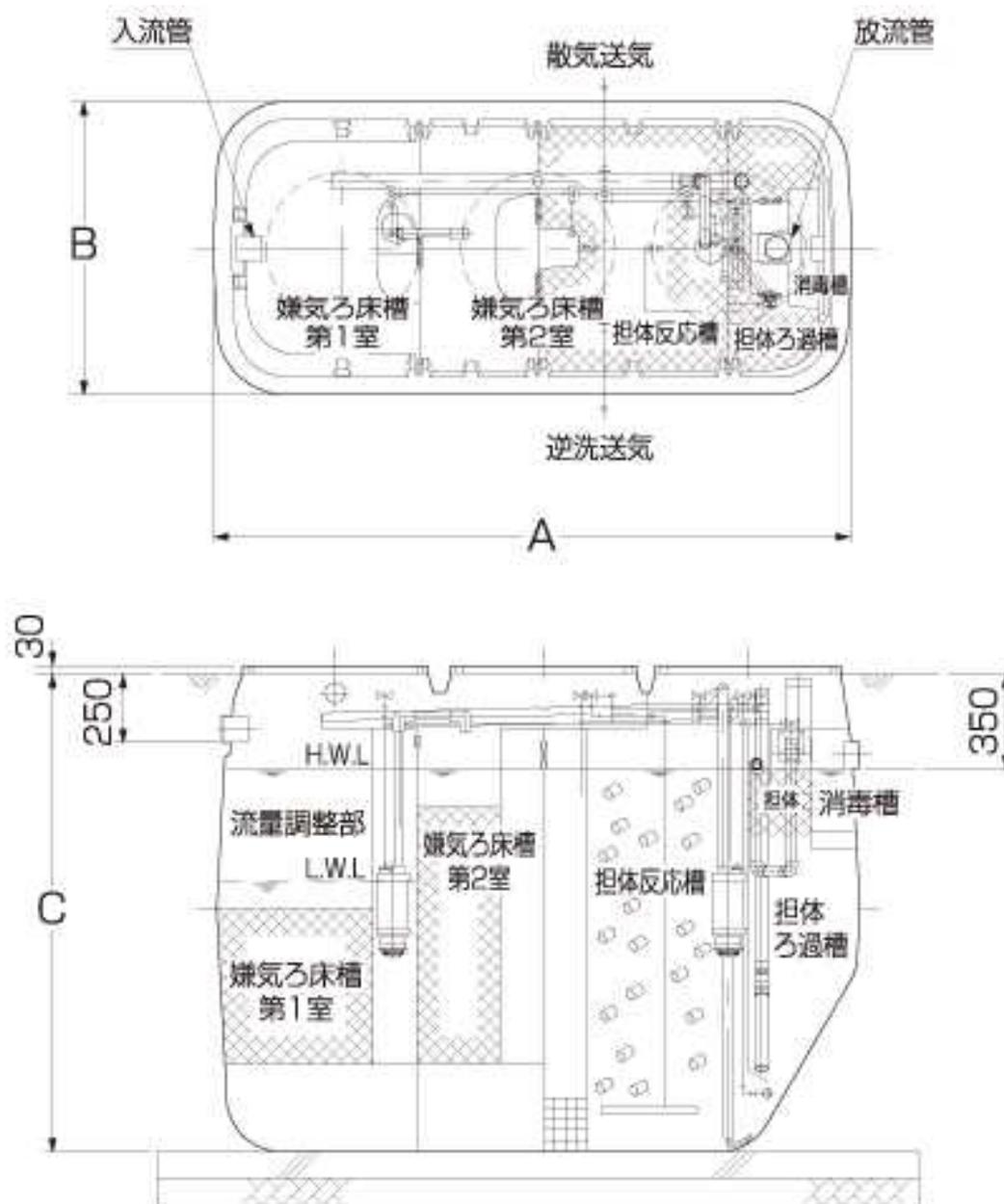


図 2-10-2 構造図

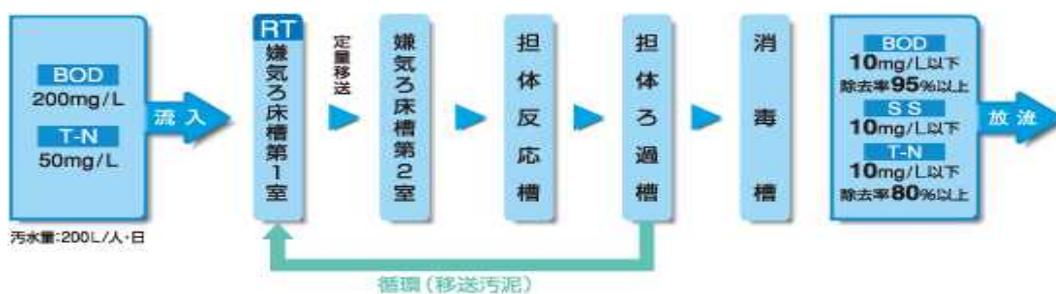


図 2-10-3 フローシート

株式会社 ダイキアクシス

3-10 ダイキアクシスXC型

○ 処理方式：嫌気ろ床担体流動循環方式

高度処理・窒素除去型：BOD 10mg/L以下 COD 20mg/L以下 T-N 10mg/L以下 SS 10mg/L以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|------------------------|---------|--|-------------------------|
| 一次処理第1室 (沈殿分離槽) | スカムの状況 | スカムが水面上 100 mm 水面下 200 mm 以上ある。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | ・堆積汚泥厚が 250 mm以上ある。 ・明らかに汚泥の流出が認められる。 | 透明管の差込 |
| 一次処理第2室 (嫌気ろ床槽) | スカムの状況 | スカムが 50 mm以上ある。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | ・堆積汚泥厚が 100 mm以上ある。 ・明らかに汚泥の流出が認められる。 | 透明管の差込 |
| 生物反応槽 (担体流動槽) | 担体の状況 | (ばっき停止時) ・スカムとして汚泥が浮上している。 ・汚泥が堆積している。 (ばっき時) ・生物膜が付着していない。 ・担体が流動していない | 目視・メスシリンダー スカム厚測定用具器 |
| 沈殿・処理水槽 (沈殿槽) | スカムの状況 | 多量のスカムがある。 | 目視 |
| | 堆積汚泥の状況 | 汚泥が堆積している。 | 透明管の差込 |
| 循環装置 (硝化液循環兼汚泥移送装置) | | ・常に汚泥が移送されていない。 ・循環水量が設計値より少ない、または多い。 人 槽 5 7 10 循環水量(L/min) 2.8~3.5 3.9~4.9 5.6~6.9 バルブ開度 58 % 60% 82% | 目視・ブラシ |

備考：処理水移送装置にて消毒槽に移送される。

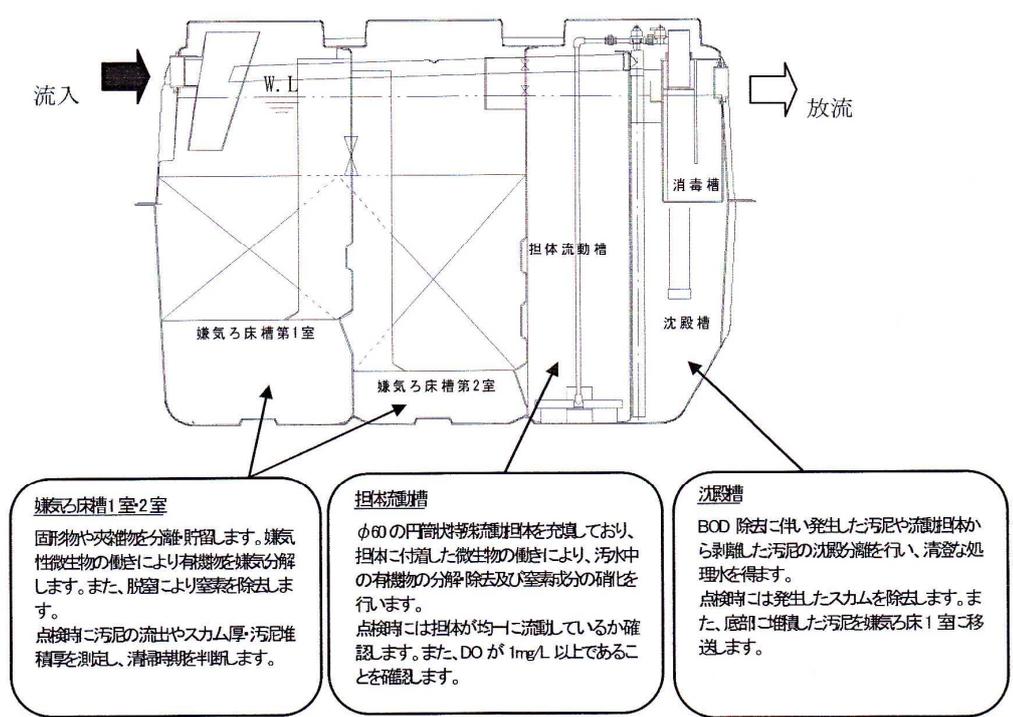
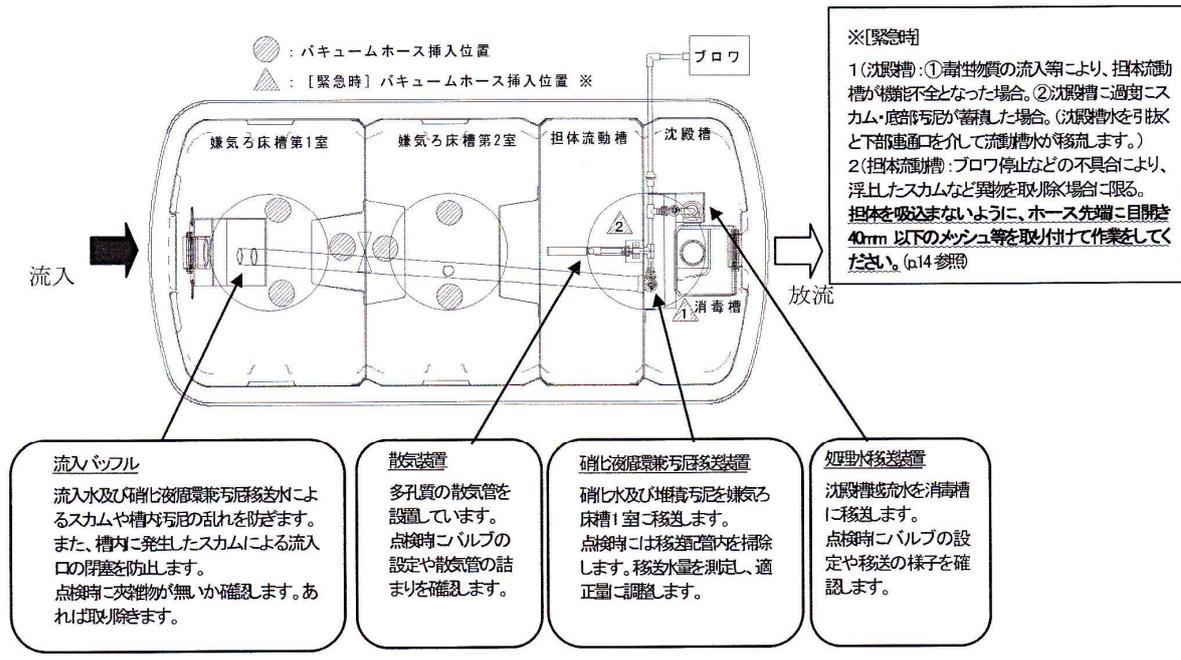
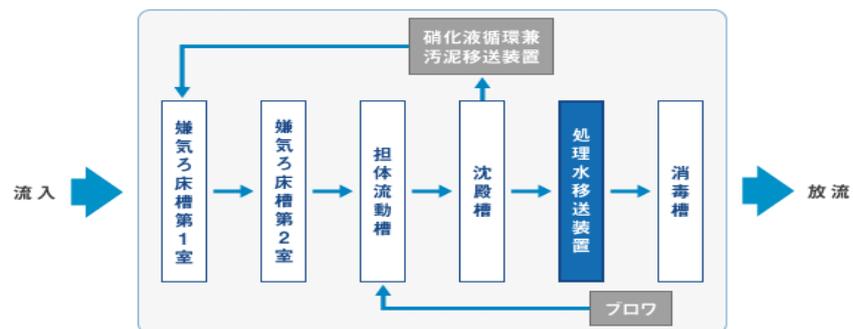


図 3-10-2 フローシート



3-1-1 ダイキアクシスXE型

○処理方式：固液分離型流量調整付担体流動循環方式

高度処理型：BOD 20mg/L以下 窒素除去型 T-N 20mg/L以下 SS 20 mg/L以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|---|-----------------------|--|----------------------|
| 一次処理槽 (汚泥貯留槽) (1. 固液分離部) (2. ピークカット部) (3. 嫌気濃縮汚泥床部) | 固液分離の状況 | ・ 汚泥が著しく流出している。 ・ 汚物が著しく蓄積している。 ・ 閉塞している | 目視 |
| | スカムの状況 (嫌気濃縮汚泥床部) | スカムが水面上 150mm 以上(固液分離部に越流している)または、水面下 150mm 以上ある。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 (嫌気濃縮汚泥床部) | 濃度の高い汚泥が底部より 830mm まで堆積している。 | 透明管の差込 |
| 生物反応槽 (担体流動槽) (1. 担体流動室) (2. 緩担体流動室) | 槽内の状況 | ・ スカムとして汚泥が浮上している。 ・ 嫌気化した汚泥が多量に堆積している。 (ばっ気停止時に点検する) | 目視・透明管の差込 |
| | 担体の状況 | 生物膜が付着していない。担体内部の生物膜に厚みが無い状態。 (担体を取り出し確認する) | 目視 |
| | 堆積汚泥の状況 | 底部に多量の汚泥が堆積している。 | 透明管の差込 |
| 沈殿・処理水槽 (沈殿槽) | スカムの状況 | 多量のスカムがある。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 底部に多量の汚泥が堆積している。 | 透明管の差込 |
| 循環装置 (循環水移送装置) | | ・ 常に循環していない。 ・ 接触材充填部上部のオーバーフロー口から水が溢れている。 ・ 循環水量が極端に多い、または少ない。 5人槽 1.0~1.7L/min 7人槽 1.5~2.4L/min 10人槽 2.1~3.5L/min | 目視・ビーカー・ストップウォッチ |
| 流量調整装置 (移送装置) | | ・ 間欠定量移送装置のまわりからエアが上がっている。 ・ 1サイクルうち終わりの数秒間だけ勢いよく吐出される。 ・ 循環水量が極端に多い、または少ない。 5人槽 2.4~3.1L/min サイクル数 2回/min 7人槽 3.4~4.4L/min サイクル数 3回/min 10人槽 4.9~6.3L/min サイクル数 4回/min | 目視・ビーカー・ストップウォッチ・ブラシ |

備考：一次処理槽（汚泥貯留槽）が固液分離部・ピークカット部・嫌気濃縮汚泥床部で構成され1室のみ。

流量調整部は汚泥貯留槽のみ。

担体流動槽は担体流動室・緩担体流動室の2室で構成されている

ダイキアクシスXE型



図 3-11-1 イメージ図

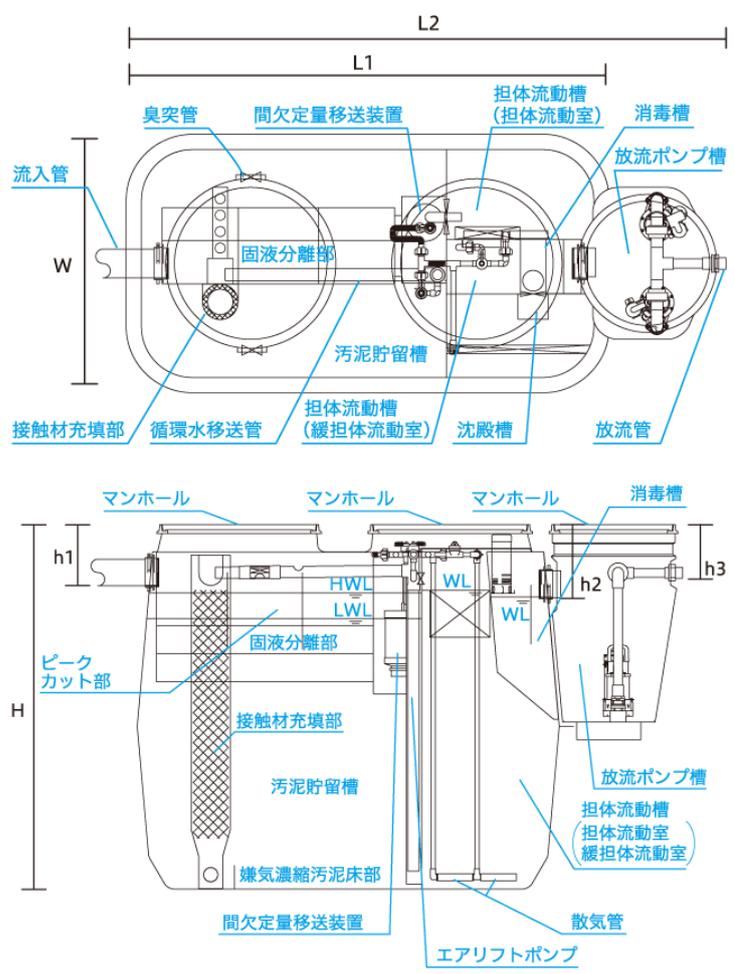
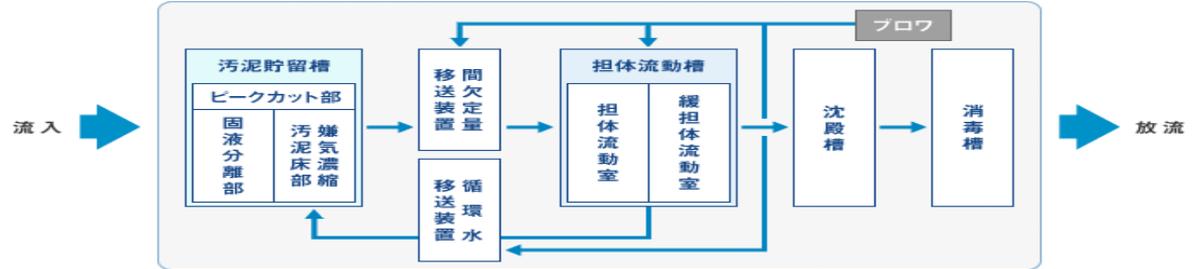


図 3-10-2 構造図



ニッコー 株式会社

4-7 浄化王NEXT型

○処理方式：流量調整型分離生物ろ過循環方式

高度処理・窒素除去型：BOD 10mg/L以下 T-N 20mg/L以下 SS 15mg/L以下 COD 10mg/L以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|----------------------------------|---|--|-----------|
| 一次処理第1室 (嫌気ろ床槽) | スカムの状況 | ・スカム厚が45cm以上ある ・発生したスカムで明らかに水流が阻害されている | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 槽底部より35cm以上ある | 透明管の差込 |
| 一次処理第2室 (ばっ気処理槽) (分離濃縮貯留槽) | ばっ気処理槽の状況 | ・ばっ気に偏りがある ・D0の測定値が1.0mg/L以下である | 目視・D0計 |
| | スカムの状況 | スカム厚が45cm以上ある | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 体積汚泥が槽底部より70cm以上ある | 透明管の差込 |
| 生物反応槽 (生物ろ過槽) | 担体の状況 | 逆洗管からのエア漏れが確認できるまたは、多量の担体が旋回している | 目視 |
| | 生物ろ過槽の状況 | ・移流口カバーに生物膜が付着している ・細孔(0.6mm)より空気の逃げが確認されない ・D0濃度が2.0mg/L以下である | 目視・D0計 |
| 沈殿・処理水槽 (処理水槽) | スカムの状況 | スカムが発生している | 目視 |
| | 堆積汚泥の状況 | 塩ビパイプ(VP13×2m)にホースをつけたものを挿入し、底部を攪拌すると、計量装置の揚水中に黒い汚泥が混じる | 塩ビパイプ・目視 |
| | | NH ₄ -N・NO ₂ -N・NO ₃ -Nの濃度の合計が明らかに、16mg/Lを越えている | 簡易な各成分濃度計 |
| 循環装置 (移送ポンプ) | | ・循環水が槽壁に当らず水面に落下している または、掃除口より循環水があふれている ・循環水量が著しく多いもしくは少ない または移送されない ・循環水量 5人槽 2.0~2.4 m ³ /日 7人槽 2.8~3.4 m ³ /日 10人槽 4.4~4.8 m ³ /日 | 目視 |
| 流量調整装置 (処理水エアリフトポンプ) | | ・移送水量が著しく多いもしくは少ない または移送されない ・移送水量 5人槽 3.4~3.8 m ³ /日 7人槽 4.8~5.4 m ³ /日 10人槽 6.9~7.7 m ³ /日 | 目視 |
| 逆洗タイマー設定 | AM1: 30~1: 45・AM2: 00~2: 15・AM2: 30~2: 45・AM3: 00~3: 15・AM3: 30~3: 45 の5回で自動設定されています。1回~10回までのタイマー設定が可能である | | |

備考：流量調整部は嫌気ろ床槽のみ

タイマーの設定は低負荷の場合1~4回 適正負荷5回 適正より高負荷6~7回 高負荷8~10回

ニッコー浄化王NEXT型

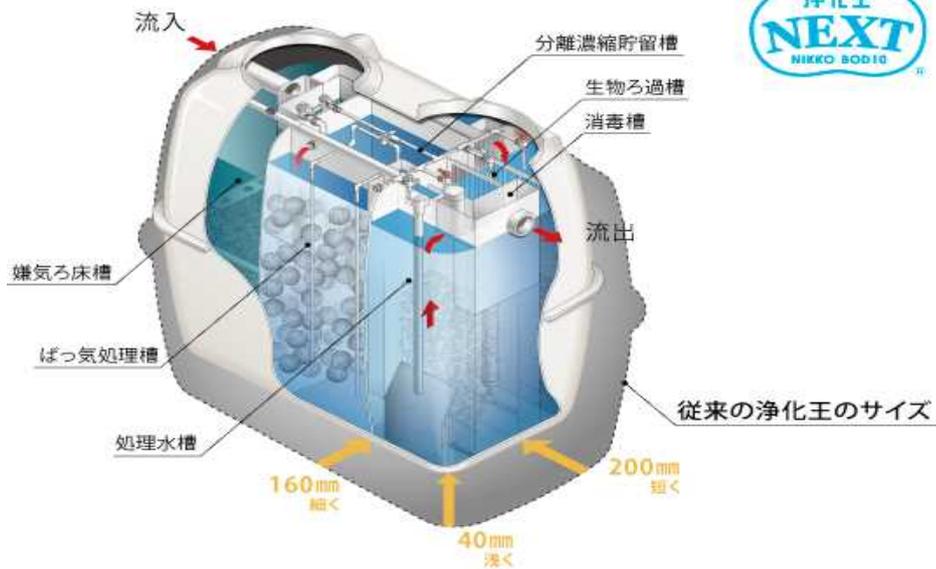
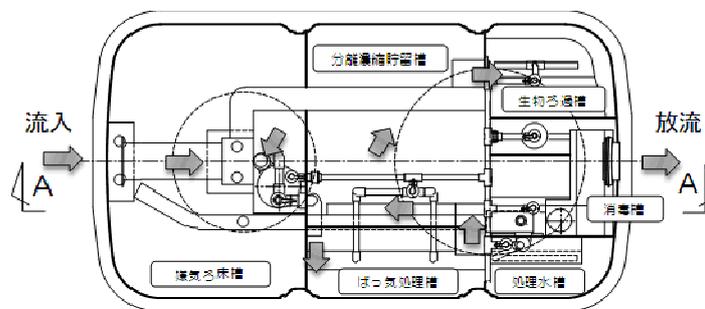
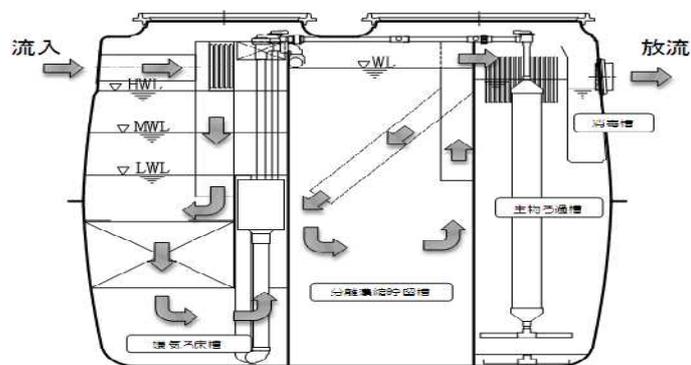


図 4-7-1 浄化槽のイメージ



平面図



A-A 断面図

図 4-7-2 構造図

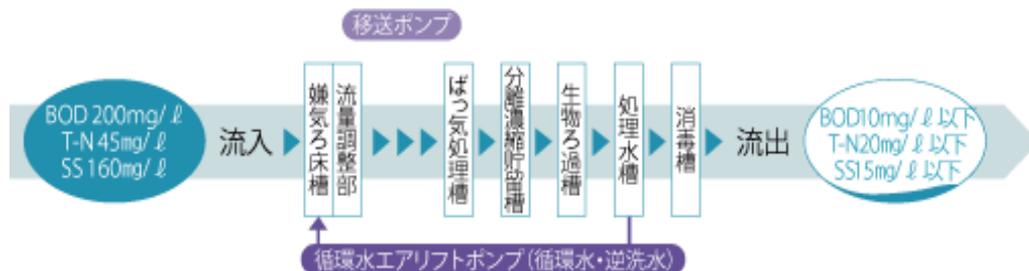


図 4-7-3 フローシート

株式会社 西原ネオ

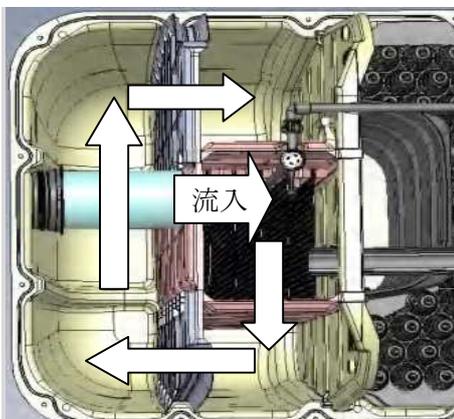
5-6 西原ネオCNZ型

○処理方式：担体流動ろ過循環方式

高度処理・窒素除去型：BOD 20mg/L以下 窒素除去型 T-N 20mg/L以下 SS 15mg/L以下

| 点検部位・名称 | 項目 | 異常な状態 | 点検方法 |
|------------------------|------------------|--|-----------|
| 一次処理第1室 (好気ろ床槽) | ろ床の状況 | 流入、放流が無いのに水位が高い。 | 目視 |
| | 散気の状況 | ばっ気による、水の盛り上がりが少ない。 | 目視 |
| 一次処理第1室 (沈殿分離槽) | スカムの状況 | 沈殿分離槽第3室のスカムが仕切りを乗り越え、嫌気ろ床槽に達している。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 沈殿分離槽第3室の堆積汚泥が嫌気ろ床槽への移流口下端付近まで濃密な汚泥が堆積している。(槽底部より80cm) | 目視・透明管の差込 |
| 一次処理第2室 (嫌気ろ床槽第2室) | スカムの状況 | 移流管内のスカムが移流管を乗り越えている。 | 目視・透明管の差込 |
| | 堆積汚泥の状況 | 移流口下端付近まで堆積している。(45cm) | 透明管の差込 |
| 生物反応槽 (担体流動槽) | 流入部の目詰まり | スリットに生物膜が多量に付着している。 | 目視・ブラシ |
| | 散気の状況 | ばっ気による、水の盛り上がりが少ない。 | 目視 |
| 生物反応槽 (移動床式ろ過槽) | ろ材の状況 | 流入、放流が無いのに水位が高い。 | 目視 |
| | ろ過槽エアリフトポンプの状況 | バルブを調整しても循環に必要な容量を揚水しない。 | 目視・ブラシ |
| | 循環水量の状況 | 設定値の範囲外。生物膜の付着がある。 | 目視・ブラシ |
| 沈殿・処理水槽 (処理水槽) | スカムの状況 | スカムが多量に発生している。。 | 目視 |
| | 堆積汚泥の状況 | 堆積汚泥が認められる。 | 透明管の差込 |
| | 放流エアリフトポンプ移送量の状況 | 水位がWLより高いのに、吐出しない。 | 目視・ブラシ |
| 循環装置 (好気循環エアリフトポンプ) | 移送量の状況 | ・循環水量が設定値の範囲外。 ・管内、吐出口に多量の生物膜が付着している。 | 目視・ブラシ |

備考：沈殿分離槽が第1室から第3室までである。



沈殿分離槽内の水の流れ

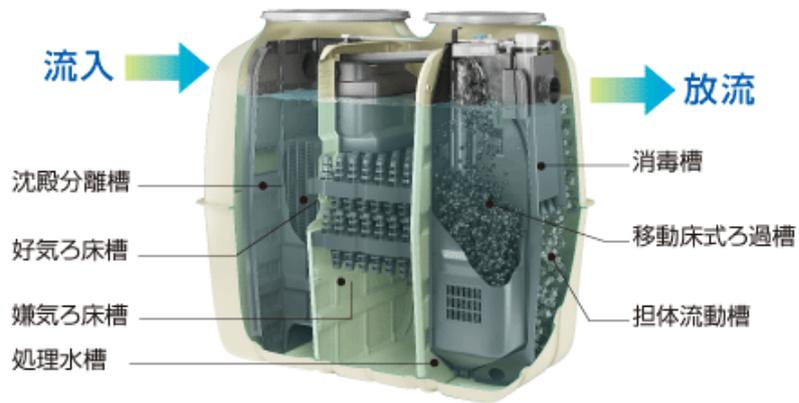


図 5-6-1 浄化槽のイメージ

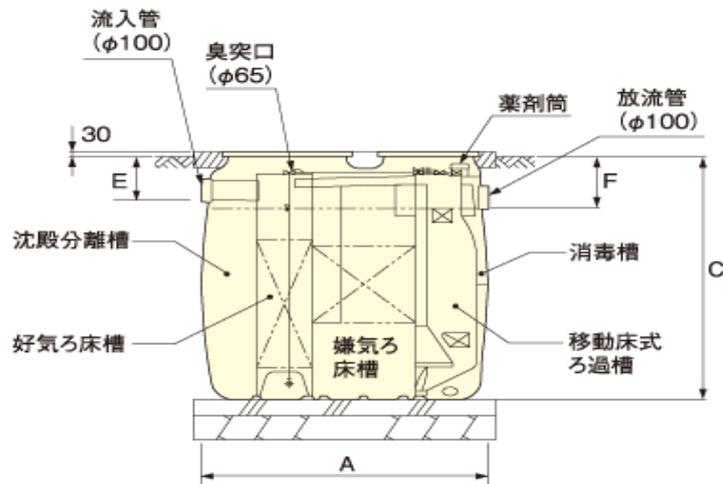
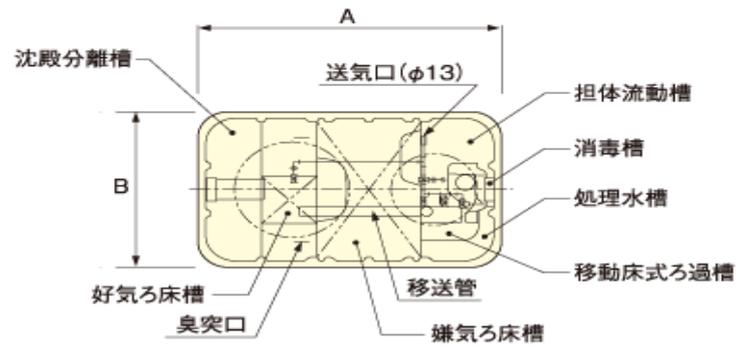


図 5-6-2 構造図

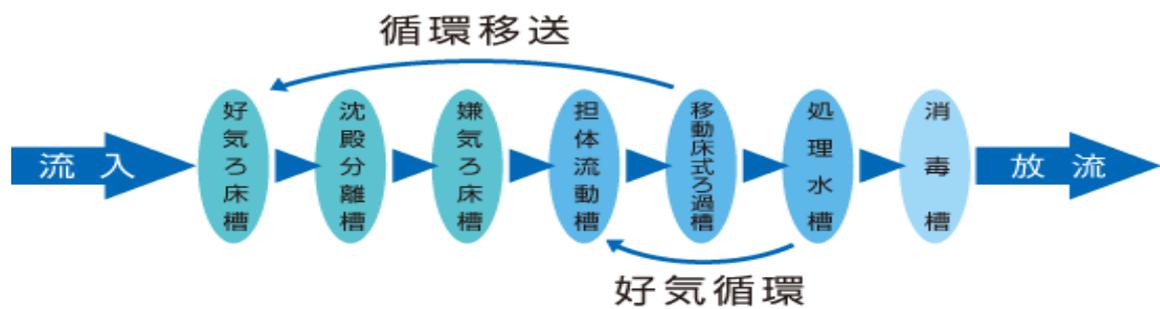


図 5-6-3 フローシート

付 録

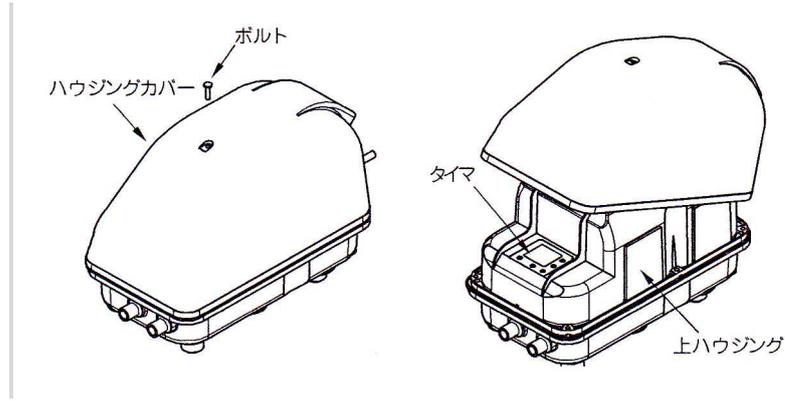


図1 タイマーの位置

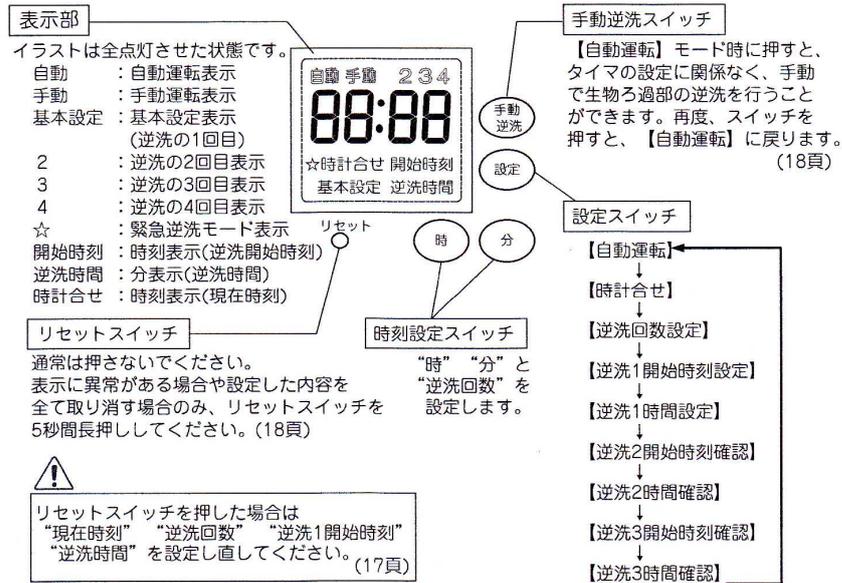


図2 タイマー各部名称

タイマー設定方法

(1) 現在時刻の設定

- 設定スイッチを押し【時計合せ】モード(右図の表示:「時刻表示」「時計合せ」が点灯)に切り替えます。
- 時刻設定スイッチで、現在時刻を設定します。「時」「分」の設定は、1回押すごとに1時間または1分ずつ進みます。1秒間以上押し続けると、早送りします。「時」は0~23、「分」は0~59の範囲で変わり、時への桁上げは行いません。
- 設定スイッチを押して【自動運転】モードに戻してください。



リセット操作を行った場合、全ての設定値は消去され【時計合せ】モードに復帰(「0:00」が点滅)します。しばらくすると、逆洗回数、逆洗開始時刻、逆洗時間が標準設定となり、0:00から時計が動き始めますので、正しい設定になおしてください。

逆洗回数の設定

- 設定スイッチを押し【逆洗回数設定】モード(右図の表示:「時刻表示」が点灯、「現在の逆洗設定回数」が点滅)に切り替えます。
- 「時」スイッチを押して、逆洗回数を設定します。逆洗回数は3回(標準設定)、4回から選択できます。
- 設定スイッチを押して【自動運転】モードに戻してください。



[逆洗回数]、[1回目の逆洗開始時刻]、[1回目の逆洗時間]を設定することにより、2回目以降の逆洗開始時刻と逆洗時間は、以下に示す通りに自動的に決定されます。(2回目以降の設定はできません。)

逆洗開始時刻の設定 【基本設定】

- 設定スイッチを押し【逆洗 1ON 設定】モード（右図の表示：「時刻表示」「自動」が点灯、「基本設定」「ON」が点滅）に切り替えます。
- 「時」「分」スイッチで逆洗開始時刻を設定します。標準は 2:00(午前 2 時)です。
- 設定スイッチを押して【自動運転】モードに戻してください。



⚠ 1 回目の逆洗開始時刻が基本設定となり、2 回目以降の逆洗開始時刻は、自動的に設定されますので、任意の時刻に設定することはできません。

逆洗時間の設定 【基本設定】

- 設定スイッチを押し【逆洗 1 時間設定】モード（右図の表示：「分表示」「自動」が点灯、「基本設定」「逆洗時間」が点滅）に切り替えます。
- 「分」スイッチで逆洗時間（分）を設定します。標準は 10 分です。
- 設定は、1 ~ 10 分までしか設定できないようになっています。
- 設定スイッチを押して【自動運転】モードに戻してください。



⚠ 1 回目の逆洗時間が基本設定となり、2 回目以降の逆洗時間は自動的に設定されますので、任意の時間に設定することはできません。

逆洗回数、1 回目の逆洗開始時刻、あるいは、逆洗時間が未設定の場合（表示部：右図の通り、「自動」が消灯した状態）、【自動運転】モードに切り替わらず、自動逆洗が行われない状態になりますので、必ず、逆洗時間を設定してください。



手動逆洗スイッチ

- 【自動運転】モードのときに、手動逆洗スイッチを押すと、【手動逆洗】モード（右図の表示：「手動」が点灯）になり、生物ろ過部の逆洗が行われます。
- 再度、手動逆洗スイッチを押すと、【自動運転】モードに戻ります。

⚠ 手動逆洗動作は、設定されている逆洗時間を経過すると、自動的に【自動運転】モードに復帰します。
自動復帰する前に、手動逆洗を終了する場合には、再度、手動逆洗スイッチを押して、【自動運転】モードに戻してください。

【手動逆洗】モード



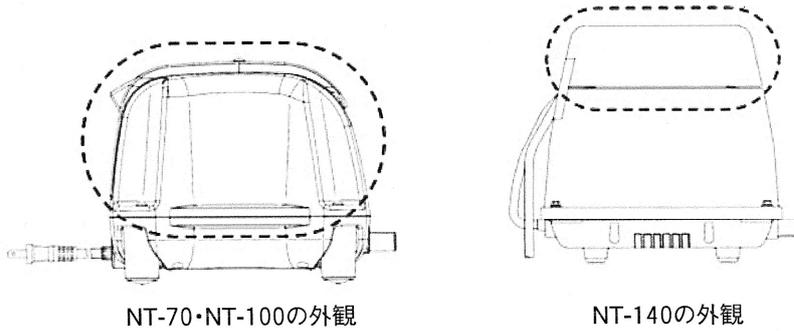
【自動逆洗】モード



リセットスイッチ

- 通常は押さないでください。
- 下記の異常が見られた場合にリセットスイッチを 5 秒間長押ししてください。
 - ① 異常な動作、表示があったとき
 - ② 設定した内容をすべて取り消したいとき
- リセット操作を行うと、すべての設定内容が取り消され、表示部は、【現在時刻設定】モード（右図の表示：「00:00」が点滅、「時計合せ」が点灯）になります。しばらくすると、逆洗回数、逆洗開始時刻、逆洗時間が標準設定となり、0:00 から時計が動き始めます。（時刻がずれたまま、標準設定で運転されます。）





【注意】 タイマーの確認及び設定変更を行う際には、タイマー基盤が水と接触することのないよう、また、ブロワ内部に水が浸入することのないよう十分注意して作業を行ってください。

図1 タイマーの位置

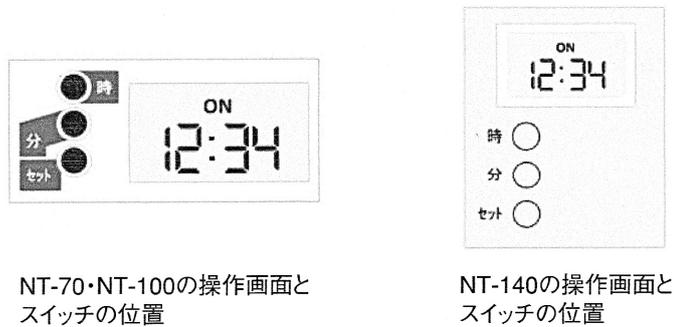


図2 タイマー各部名称

現在時刻の確認・設定

| | | |
|---------|--|---|
| 時刻確認 | | 自動運転時は、常時現在時刻が表示されています。 |
| 現在時刻の変更 | | 現在時刻を変更する場合は、「時」スイッチを2秒以上押すと、《現在時刻の変更画面》となり、時刻表示が点滅し、現在時刻の変更が可能となります。 |
| | | 「時」「分」スイッチを押して、正しい時刻に設定しなおしてください。 |
| | | 「セット」スイッチを押すと、設定した時刻からカウントを開始し始めます。 (《現在時刻表示画面》に戻ります。) |

※《現在時刻の変更画面》において、どのスイッチも押されない場合や時刻変更後に「セット」スイッチが押されない場合、1分以上経過すると自動運転に戻ります。この場合、時計の時刻は以前の状態のままとなります。

逆洗回数の確認・設定

| | | |
|-----------------------------|--|--|
| 逆洗回数 の確認 | | 自動運転時において、「時」スイッチを2秒以上長押しします。 (《現在時刻の変更画面》になり、現在時刻が点滅します。) |
| | | その後、「セット」スイッチを2秒以上長押しします。 |
| | | 《逆洗回数表示画面》になり、現在の逆洗回数が点滅表示されます。 “5”と表示されることを確認してください。そのまま1分以上経過すると自動運転に戻ります。 (《1回目のブロフOFF時刻の変更画面》になります。) |
| 逆洗回数 の変更 | | この画面において逆洗回数の変更ができます。「分」スイッチを押すと1回ずつ減らすことができ、「時」スイッチを押すと回数が1回ずつ増え、最大7回まで増やすことができます。 |
| | | 逆洗回数を8回以上に設定したい場合は、画面に逆洗回数7回が表示されている状態で、「時」スイッチを押しながら「セット」スイッチを押すと、逆洗回数が8回以上(最大10回まで)に設定することができます。 |
| | | 希望の逆洗回数とした後、「セット」スイッチを押すと逆洗回数が設定され、《1回目のブロフOFF時刻の変更画面》になります。 |
| OFF時刻 の確認 1回目の ブロフ | | 工場出荷時、1回目のブロフOFF時刻は午前1:30に設定されています。(そのまま良い場合は「セット」スイッチを押してください。自動運転に切り替わると同時に、各逆洗時刻の確認表示になり、ブロフOFF時刻とブロフON時刻(逆洗開始時刻)が順に表示され、表示が終了すると、《現在時刻表示画面》に戻ります。) |
| OFF時刻 の変更 1回目の ブロフ | | 「時」「分」スイッチで希望の逆洗時刻に合わせます。 この時、「分」スイッチを一度押すと5分または15分ずつ進みます。 |
| | | 希望の逆洗開始時刻とした後、「セット」を押すと1回目の逆洗開始時刻が設定され、自動運転に切り替わります。この時、設定したブロフOFF時刻とブロフON時刻(逆洗開始時刻)が順に表示され、表示が終了すると、《現在時刻表示画面》に戻ります。 |

※《逆洗回数表示画面》または《1回目のブロフOFF時刻の変更画面》において、どのスイッチも押されない場合や時刻変更後に「セット」スイッチが押されない場合、1分以上経過すると自動運転に戻ります。

この場合、逆洗回数や1回目のブロフOFF時刻は以前の状態のままとなります。

※逆洗回数が1～7回の場合は、ブロフのOFF/ON運転1セットが30分単位で運転する設定となり、逆洗回数が8～10回の場合は、ブロフのOFF/ON運転1セットが25分単位で運転する設定となります。

※1回目のブロフOFF時刻の設定を行うと、自動的に2回目以降のブロフOFF時刻が変更されます。

※逆洗回数を8～10回に設定する場合、1回目のブロフOFF時刻を午前1:00に変更することをお勧めします。

手動運転の方法

| | | |
|---------|---|--|
| 手動運転の方法 |  | 自動運転時において、「分」スイッチを2秒以上押します。 「手動」表示が点灯し、《手動運転画面》になります。 |
| |  | 「分」スイッチを押すたびに、ブロワの運転・停止を繰り返します。 |
| |  | |
| |  | 「セット」スイッチを押すと自動運転に戻ります。 (《現在時刻表示画面》に戻ります。) |

※《手動運転画面》において、「セット」スイッチを押さなかった場合、最後に「分」スイッチを押してから15分経過後に自動運転に戻ります。

ソフトウェアのリセット方法

「時」スイッチと「分」スイッチを同時に3秒以上長押しすると、ソフトウェアがリセットされます。ソフトウェアがリセットされると逆洗の設定は出荷時の設定に戻ります。現在時刻も同時にリセットされ、0:00よりカウントを開始します。再度、現在時刻の設定を行ってください。

小型浄化槽メーカー別保守点検管理マニュアル（更新版）

発行 一般社団法人 千葉県環境保全センター

〒260-0024

千葉県千葉市中央区中央港1-11-1

電話 043-245-4222

FAX 043-245-4223

H P <http://www.kankyohozen.com/>

発行者 石井 栄

編集 公益社団法人 神奈川県生活水保全協会

技術情報委員会・浄化槽部会

発行年月日 平成26年3月1日 発行

（無断転載・複製を禁ず）